



令和5年度(第62回)農林水産祭

天皇杯受賞

～株式会社 栢川製茶 (知覧地域)～



令和5年度の農林水産祭で、株式会社栢川製茶が、農産・畜産部門の最高賞である天皇杯を受賞することとなりました。

これは、過去一年間の農林水産祭参加行事において、農林水産大臣賞を受賞した456点の中から選考されたもので、11月23日に明治神宮会館である第62回農林水産祭式典で表彰されます。

株式会社栢川製茶は、卓越した技術で50年以上各種茶品評会に連続出品しています。

「知覧茶」ブランドの礎を築いた知覧銘茶研究会の会長を三世代にわたり歴任し、山間地の作業効率が低い園の造成を行い、大型機械化体系による省力化と低コスト生産を可能としました。また、自ら価格設定ができる仕上げ茶販売を行い、経営の安定が図られています。

お茶部門の中で天皇杯を受賞するのは鹿児島県内でも実に32年ぶり、南九州市においては旧3町を含めて初の快挙となります。これからも南九州市、ひいては日本茶業の先導役としてますますの活躍が期待されます。

「農林水産祭」について

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施されています。



～ふるさと自慢、味自慢～

第28回小京都ふるさと祭



11月3日、知覧平和公園自由広場で第28回小京都ふるさと祭が開催されました。今年は、かごしま国体の開催に伴い、例年の10月最終日曜日から日程を移しての開催となり、知覧文化祭との共催で行われました。当日のステージでは、地元団体の演奏が行われたほか、ノブ＆フッキーのものまねショー、杜このみさんの歌謡ショーが披露され会場は大いに盛り上がりました。また、本市と交流都市である福岡県北九州市、佐賀県小城市からも特産品の販売などの出店があり、多くの人でにぎわいました。

～みどりの美術展審査員長の祝迫正豊さん～

二科展東京都知事賞受賞



国立新美術館(東京都)で開かれた第107回二科展で、東京都知事賞を受賞した県美術協会会長の祝迫正豊さんが、市長を表敬訪問しました。祝迫さんは、南九州市みどりの美術展の審査員長を務め本市の芸術文化の振興に貢献されています。受賞作品は、来年3月に開催予定の鹿児島巡回展(黎明館)で鑑賞することができます。

「みどりの美術展」の名称は、祝迫さんが「3町が色でつながって欲しい」との思いで提案したとのこと。「子どもたちが、みどりの美術展のジュニア部門に出品し、絵画を通じて郷土愛を育てて欲しい」と話しました。

～廃校活用や空き家再生で地域活性化に寄与～

一般社団法人リバーバンクがMBC賞を受賞



一般社団法人リバーバンクが第56回MBC賞を受賞しました。これは、「森の学校」や「タノカミステーション」などの廃校を活用した関係人口の創出のほか、空き家再生などの、地元と連携して地域課題を解決する取り組みを認められたものです。

代表理事の坂口修一郎さんは、「地元の人々が長年大切にしてきた廃校や空き家という資源を活用する活動に光をあてていただき嬉しい。私たちが渡されたバトンは次の世代にしっかり受け継いでいきたい」と喜びを語りました。

～日本グリーン電力開発(株)が企業版ふるさと納税～

市民の憩いの場整備に役立てて



10月13日、日本グリーン電力開発株式会社(本社：東京都千代田区)が企業版ふるさと納税として寄付を行いました。

これは、同社の事業開始10周年を記念し、事業所のある本市のまちづくりに役立ててもらおうと行われたもので、贈呈式では同社の関谷恵美代表取締役会長から市長へ寄付金300万円の目録が手渡されました。

寄付金は、顕娃運動公園の整備や維持管理に活用される予定です。